



中学生が市政を問う

令和元年度平戸市子ども議会開催

8月7日（水曜）、平戸市議会議場で「令和元年度平戸市子ども議会」を開催しました。昨年度より市内の中学校を2つのグループに分けて実施しており、今年度は4校の中学校（大島中、田平中、野子中、中野中）から各3人が学校代表として一般質問を行いました。子ども議員の皆さんは、緊張しながらも堂々と議会に臨み、中学生ならではの視点で素晴らしい議論を繰り広げました。



野子中学校

<p>3年 柴山 幸姫 さん 「子どもの健全な発達のための環境の整備」について</p>	<p>2年 小山 莉央 さん 「子どもの健全な発達のための環境の整備」について</p>	<p>3年 西宮 宏敦 さん 「児童生徒の安全確保の立場から通学路の安全」について</p>
<p>Q 子どもの学校教育・保育ニーズに 応えるため、具体的に実施していること と今後の計画は？ A 平戸市子ども・子育て支援事業計画は、 各種ニーズを推計し、幼稚園、保育所、 認定子ども園が教育・保育サービスを適切に 提供できているか把握するためのもの。また、 別の施策として、子育てを支援する生活環境 の一つとして安心して利用できる公園の整備は 大切であるため、市内の公園の道具点検や 維持・整備を行なっている。</p>	<p>Q 施設整備にあたって市内各地域の 実情および事業者の意向を勘案し施策を 進めるとのことだが、現在の実情や意向は？ A 平戸市子ども・子育て支援事業は、 保護者や地域の代表者などの意見を基に 計画を立てている。放課後の児童の居場所 を増やしてほしいというニーズが高い地域 には放課後児童クラブを整備する計画を 立てている。また、公園を造ってほしいと 地域から要望を受け、さくらば公園を整備 した。</p>	<p>Q 野子小中学校前の道路の制限速度が 40 km/hから50 km/hに変わった。一部が 狭い路側帯を通り、横断歩道を渡る人も おり、さらに危険性が増していると思うが 市の考えは？ A 市として制限速度の緩和について コメントする立場にないが、交通安全対策 を所管・推進する市として、各地区に配置 する交通指導員による立哨指導、交通安全 教育の実施、交通ルールの周知徹底など により、歩行者等の安全確保に努める。</p>

大島中学校

<p>3年 柳田 莉奈 さん 「定住・移住者の支援・空き家の掘り起こしと 空き家バンクの充実」について</p>	<p>3年 川久保羅夢 さん 「定住・移住者の支援・婚活支援」について</p>	<p>3年 阿立 桜 さん 「定住・移住者の支援・婚活支援」について</p>
<p>Q 空き家を活用しカフェにする「海を見渡せる カフェプラン」は、観光客の増加や憩いの場 の提供につながるのではないかと。市の支援 は？ A 市内で新たに事業を始める場合、さま ざまな支援策がある。空き家をカフェなど として活用する場合は補助率3分の1で100 万円を上限とした補助金の交付がある。ま た、空き家の活用促進策としてお試住住宅 制度や空き家バンク制度を介しての中古住 宅購入・改修補助などがある。</p>	<p>Q 移住者の増加や人口減少対策のため「 LOVE婚！大作戦！」という名の婚活事業 をやってはどうか？ A 市では、婚活イベントを平成30年度 までに計36回実施しており、延べ参加者、 男性558人、女性488人の方にご参加 いただき、これまで7組の結婚につなが っている。 大島村では、平成29年2月に1泊2日 で婚活イベントを行なっており、島内の 男性14人、市外からの女性10人に参加 していただいた。</p>	<p>イベントの内容は、神浦地区の町並みや 風力発電施設を見学したり、大島の海の 幸を味わいながら親睦を深めるという もので、結果としてカップルが3組成 立し、その後、2組の結婚につなが った。 大島村まちづくり運営協議会におい ても、事業計画の中で「島婚事業」が 予定されているので、皆さんが考えた 「LOVE婚！大作戦！」のアイデアを 出すなど、事業に積極的に関わって いただければと思う。</p>

中野中学校

<p>3年 本山 誠 さん 「五感型観光を推進する」について</p>	<p>3年 大石 華衣 さん 「生産基盤を整備する」について</p>	<p>2年 寺田 光希 さん 「生産基盤を整備する」について</p>
<p>Q 新たなイベントとして釣り大会やサイ クリング大会を企画してはどうか。宿泊 客も増えるのではないかと。 A 釣り大会やサイクリング大会は、本 市の美しく雄大な自然景観を生かした もので、県内外から多くの観光客を取 り込むことが可能と思われる。しか し、釣り大会はすでに民間の釣具店等 により各種大会が実施されていること。 また、サイクリング大会は本市の道 路事情や長時間の交通規制等の問題 があり、開催が難しい。</p>	<p>Q 手つかずの竹林や耕作放棄地対策 は？環境・景観の整備、有害鳥獣対策 の強化のためにも必要ではないかと。 A 耕作放棄地は年々増加しており、 市全体の農地面積4,524haに対し1,344 haが耕作放棄地と判断されている（平 成30年度）。市では交付金を活用し ながら、農地や農道、水路などの維持 管理に係る経費の支援、耕作をしてい ない農地を貸し出す農地の流動化など により未然に耕作放棄地とならない よう取り組んでいる。</p>	<p>Q 市では木質バイオマスエネルギー の利用促進を図っているが、竹林を整 備する際に出てくる竹を燃料に利用で きないかと。 A 竹は成長が早く、至るところに あり、大変有効に思われるが、本市が 検討を進めている木材を主原料とする 小型バイオマスボイラーでは活用が 難しい。今後、研究や技術開発が進 んで、竹でも利用できる小型のバイ オマスボイラーが開発されれば利用 について検討していきたい。</p>

田平中学校

<p>2年 黒崎健太郎 さん 「平戸学の普及」について</p>	<p>3年 芥田 賢洸 さん 「平戸学の普及」について</p>	<p>3年 古里 大和 さん 「平戸市の観光開発」について</p>
<p>Q もっと平戸の歴史や伝統文化につ いて知りたい。平戸学を学校で学ぶ ことはできないか。学校での地域の 人材を生かした平戸学普及について 教えてほしい。 A 平戸学は、郷土の自然や歴史・文 化を調査研究し、市民をはじめ、多 くのの人に広く知っていただくこと を目指し、歴史資料などの調査を 継続して行なっている。 学校現場における平戸学の学習につ いては、平戸歴史文庫、平戸遺産を</p>	<p>はじめとする書籍、無形民俗文化財 の映像記録DVDなどを学校に配布 して利用してほしい。 また、平戸学を学校で学ぶための 人材紹介や活用の仕組みについては、 出前講座制度があり、学芸員や専 門職員を派遣している。学習して みたいジャンルやテーマを選択し 申し込んでいただきたい。 また、ふるさとを学ぶ教育につ いては、独自にデジタル教科書「 わたしたちの平戸市」を作成して</p>	<p>Q 田平で昆虫をメインとした観光ア ピールができないか。昆虫を活用 した観光開発は考えていないかと。 A 「道の駅たびら」にある巨大カ プトムシを活用し、同じ規模のカ プトムシのオブジェを有する大分 県、鹿児島県の自治体と連携し たスタンプラリーを展開している。 また、旅行会社とタイアップし、 九州管内の子どもたちを対象に 昆虫体験等を行なっている。今 後も昆虫を活用したPR方法等 検討する。</p>